

公 開
資 料 3

第 3 4 8 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和5年7月24日

日 本 学 術 会 議

公開審議事項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等
Ⅲ 公開審議事項					
1. 委員会関係					
提案1	(分野別委員会) 分科会委員の決定 (追加1件)	第二部長	5	分野別委員会における分科会委員を決定する必要があるため。	第二部長 内規12条
2. 国際関係					
提案2	令和5年度代表派遣について、派遣者を決定すること	会長	7	令和5年度代表派遣について、派遣者を決定する必要があるため。	高村副会長 国際学術交流事業に関する内規192項
提案3	第22回アジア学術会議 (1)代表者の派遣の決定 (2)外国人招へい者の決定	会長	9	第22回アジア学術会議への代表者の派遣を決定するとともに、外国人招へい者を決定する必要があるため。 ※国際委員会7月21日承認、アジア学術会議等分科会7月12日承認	高村副会長 令和5年度アジア学術会議等代表者派遣の基本方針
3. その他のシンポジウム等					
提案4	公開シンポジウム「ようこそ社会水文学へ～水と社会の相互作用を考える～」の開催について	地球惑星科学委員会委員長	13	主催：日本学術会議地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会、地球惑星科学委員会IUGG分科会 日時：令和5年9月3日(日)11:40～13:10 場所：出島メッセ長崎(長崎県長崎市)(ハイブリッド開催) ※第三部承認	— 内規別表第2
提案5	公開シンポジウム「環境に関する政策統合の課題」の開催について	環境学委員会委員長	15	主催：日本学術会議環境学委員会環境政策・環境計画分科会 日時：令和5年9月3日(日)13:30～17:00 場所：オンライン開催 ※第三部承認	— 内規別表第2
提案6	公開シンポジウム「[プラネタリーヘルス研究 市民公開シンポジウム] 気候変動・生物多様性損失と人間の健康・社会：学際研究から市民協働実践活動の展開」の開催について	環境学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長	17	主催：日本学術会議環境学委員会・健康・生活科学委員会合同環境リスク分科会 日時：令和5年9月7日(木)9:30～12:00 場所：神戸大学鶴甲第2キャンパス(兵庫県神戸市)(ハイブリッド開催) ※第三部承認	— 内規別表第2
提案7	公開シンポジウム「フューチャー・デザイン2023」の開催について	経済学委員会委員長、環境学委員会委員長	21	主催：日本学術会議経済学委員会・環境学委員会合同フューチャー・デザイン分科会、キャノングローバル戦略研究所 日時：令和5年9月9日(土)9:00～18:25、10日(日)10:00～17:25 場所：オンライン開催 ※第一部承認	— 内規別表第2

提案8	公開シンポジウム「我が国の衛星地球観測に関する統合的戦略立案」の開催について	地球惑星科学委員会委員長	27	主催：日本学術会議地球惑星科学委員会地球・惑星圏分科会 日時：令和5年9月12日（火）13：00～18：00 場所：日本学術会議講堂 ※第三部承認	—	内規別表第2
提案9	公開シンポジウム「生成AIの課題と今後」の開催について	情報学委員会委員長	31	主催：日本学術会議情報学委員会ITの生む諸課題検討分科会 日時：令和5年9月14日（木）13:00～17:00 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案10	公開シンポジウム「動き出す子どもまんなか安全社会」の開催について	臨床医学委員会委員長、心理学・教育学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長、環境学委員会委員長、土木工学・建築学委員会委員長	35	主催：日本学術会議臨床医学委員会・心理学・教育学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会 日時：令和5年9月16日（土）13：00～16：00 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案11	公開シンポジウム「薬剤師に期待する地域医療への能動的関与」の開催について	薬学委員会委員長	37	主催：日本学術会議薬学委員会、薬学委員会地域共生社会における薬剤師職能分科会、公益社団法人日本薬学会、一般社団法人日本医療薬学会 日時：令和5年9月16日（土）13：00～16：00 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案12	女性の活躍推進のためのワークショップ「多様な人材が活躍できる環境を皆で考えよう～ロールモデルとの対話から考える～」の開催について	第二部長	41	主催：日本学術会議第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会 日時：令和5年9月16日（土）15：00～17：00 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案13	公開シンポジウム「「みち」の視点からとらえる人と自然のかかわり」の開催について	環境学委員会委員長、統合生物委員会委員長	45	主催：日本学術会議環境学委員会・統合生物学委員会合同自然環境分科会 日時：令和5年9月18日（月・祝）14：00～17：00 場所：オンライン開催 ※第三部承認	—	内規別表第2
提案14	公開シンポジウム「フィールド研究における総合知～知識から実践へ～」の開催について	環境学委員会委員長、農学委員会委員長、統合生物学委員会委員長	47	主催：日本学術会議環境学委員会環境科学分科会、農学委員会土壌科学分科会、環境学委員会・統合生物学委員会合同自然環境分科会 日時：令和5年9月19日（火）13：30～16：45（予定） 場所：日本学術会議講堂、他1室（ハイブリッド開催） ※第二部、第三部承認	—	内規別表第2
提案15	公開シンポジウム「リスク社会における法の役割」の開催について	法学委員会委員長	49	主催：日本学術会議法学委員会リスク社会と法分科会 日時：令和5年9月19日（火）13：30～17：00 場所：オンライン開催 ※第一部承認	—	内規別表第2

提案16	公開シンポジウム「若手研究者とリーダーシップ：研究チームから国際コミュニティまで」の開催について	若手アカデミー	51	主催：日本学術会議若手アカデミー 日時：令和5年9月22日（金）13：00～15：00 場所：広島大学霞キャンパス広仁会館（広島県広島市）（ハイブリッド開催）	—	内規別表第2
提案17	公開シンポジウム「総合知における人文・社会科学の役割と評価」の開催について	第一部長	55	主催：日本学術会議第一部人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会、第一部人文・社会科学基礎データ分科会 日時：令和5年9月23日（土）13：00～16：00 場所：オンライン開催 ※第一部承認	—	内規別表第2
提案18	公開シンポジウム「文化施設としての自然史系博物館を考える」の開催について	地球惑星科学委員会委員長、統合生物学委員会委員長、基礎生物学委員会委員長	57	主催：日本学術会議地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会、統合生物学委員会・基礎生物学委員会・地球惑星科学委員会合同自然史・古生物学分科会 日時：令和5年9月23日（土）13：00～18：00 場所：オンライン開催 ※第二部、第三部承認	—	内規別表第2
提案19	公開シンポジウム「自治体と総合性～分権国会決議30年～」(仮題)の開催について	政治学委員会委員長	61	主催：日本学術会議政治学委員会行政学・地方自治分科会 日時：令和5年9月23日（土）14：00～17：00 場所：オンライン開催 ※第一部承認	—	内規別表第2
提案20	公開シンポジウム「サステナブル経営の実現をめざして」の開催について	経営学委員会委員長	63	主催：日本学術会議経営学委員会SDGsと経営実践・経営学・経営学教育を検討する分科会 日時：令和5年9月24日（日）13：30～16：30 場所：筑波大学東京キャンパス（東京都文京区） ※第一部承認	—	内規別表第2
提案21	公開シンポジウム「子ども政策の総合化を考えるⅢ：保育・幼児教育の公共性」の開催について	心理学・教育学委員会委員長	67	主催：日本学術会議心理学・教育学委員会排除・包摂と教育分科会、心理学・教育学委員会乳幼児発達・保育分科会 日時：令和5年9月24日（日）16：00～19：00 場所：オンライン開催 ※第一部開催	—	内規別表第2
提案22	公開シンポジウム「地球環境変化の人的側面研究からのSDGsへの貢献の現状と展望」の開催について	地域研究委員会委員長、環境学委員会委員長、地球惑星科学委員会委員長	69	主催：日本学術会議地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人的側面（HD）分科会 日時：令和5年9月27日（水）13：00～16：00 場所：オンライン開催 ※第一部開催	—	
提案23	公開シンポジウム「陸域システムの持続性研究におけるGLPとデジタル技術の役割」の開催について	環境学委員会委員長、地球惑星科学委員会委員長	71	主催：日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同FE・WCRP合同分科会 日時：令和5年9月28日（木）13：30～17：00 場所：オンライン開催 ※第三部承認	—	内規別表第2

提案24	公開シンポジウム「歴史教育シンポジウム（「歴史総合」をめぐって(7)－「歴史総合」の授業と教員養成を検討する」の開催について	史学委員会委員長	75	主催：日本学術会議史学委員会、史学委員会中高大歴史教育に関する分科会 日時：令和5年10月28日（土）13：00～17：00 場所：一橋大学（東キャンパス）東2号館2201教室（東京都国立市）（ハイブリッド開催） ※第一部承認	－	内規別表第2
------	--	----------	----	--	---	--------

5. 後援

提案25	国内会議の後援をすること	会長	77	以下について、後援の申請があり、関係する部、委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ①日本科学振興協会年次大会2023「会いに行ける科学者フェス」 ②第44回日本熱物性シンポジウム ③第66回自動制御連合講演会	会長	後援名義使用承認基準3(2)ウ
------	--------------	----	----	--	----	-----------------

6. その他

件名		資料(頁)
参考	今後の総会及び幹事会開催予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は、令和5年8月10日（木）14:30～開催。	79

【分野別委員会】

○委員の決定（追加 1 件）

（基礎医学委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
古屋敷 智之	神戸大学大学院医学研究科教授	第二部会員

【設置：常置（細則第 10 条第 2 項）、追加決定後の委員数：22 名】

令和 5 年度代表派遣実施計画の派遣者の決定について

以下のとおり、令和 5 年度代表派遣実施計画の派遣者の決定を行う。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (※1) (職名)	推 薦	内 容
1	国際人類学民族科学連 合 (IUAES) 2023 年総 会、役員会等	10 月 14 日 ～ 10 月 28 日	デリー、ポン ディシェリ、 ハイデラバード、コルカタ (インド)	小泉 潤二 (※2) — (大学共同利用機関法人人間文 化研究機構監事、大阪大学名誉 教授)	地域研究委員会 文化人類学分科 会	・派遣者の決定 ※実施計画については第 339 回 幹事会 (令和 5 年 2 月 22 日) にて承認済み。 ※現地出席予定
2	CODATA 総会および国際 データウィーク	10 月 23 日 ～ 10 月 28 日	ザルツブルグ (オーストリ ア)	井上 純哉 連携会員 (東京大学生産技術研究所物 質・環境系部門教授)	情報学委員会国 際サイエンスデ ータ分科会 CODATA 小委員 会	・派遣者の決定 ※実施計画については第 339 回 幹事会 (令和 5 年 2 月 22 日) にて承認済み。 ※現地出席予定
3	第 10 回アジアオセア ニア生理学会連合 (FAOPS) 会議	10 月 31 日 ～ 11 月 4 日	大邱広域市 (韓国)	久保 義弘 連携会員 (自然科学研究機構生理学研 究所教授)	基礎医学委員会 IUPS 分科会	・派遣者の決定 ※実施計画については第 339 回 幹事会 (令和 5 年 2 月 22 日) にて承認済み。 ※現地出席予定
4	国際科学史技術史科学 基礎論学会連合/科学 史技術史部門 (IUHPST/DHST) 評議 会	12 月 11 日	オンライン	橋本 毅彦 連携会員 (東京大学名誉教授)	史学委員会 IUHPST 分科会	・派遣者の決定 ※実施計画については第 339 回 幹事会 (令和 5 年 2 月 22 日) にて承認済み。
5	第 80 回国際地質科学 連合 (IUGS) 理事会及 び執行理事事務局会議	2 月 12 日 ～ 2 月 16 日	バンクーバー (カナダ)	北里 洋 (※2) — (早稲田大学教育総合科学学術 院招聘研究員)	地球惑星科学委 員会 IUGS 分科 会	・派遣者の決定 ※実施計画については第 339 回 幹事会 (令和 5 年 2 月 22 日) にて承認済み。 ※現地出席予定

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
6	北極科学サミット週間 2024	3月21日 ～ 3月29日	エジンバラ (英国)	榎本 浩之 (※2) — (情報・システム研究機構国立 極地研究所教授)	地球惑星科学委 員会地球惑星科 学国際連携分科 会	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣者の決定 ※実施計画については第339回 幹事会(令和5年2月22日) にて承認済み。 ※現地出席予定

(注)

(※1) 派遣候補者の会員・連携会員の種別については、第25期現在のもの。

(※2) 当該派遣候補者は、連携会員(特任)に承認されることを条件とする。(ただし、第26期において会員又は連携会員に任命された場合を除く。)

令和5年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣

	国際会議等	会 期		開催地及び用務地 (※1)	派遣候補者(※2) (職名)	備 考 (※4)
			計			
1	第22回アジア学術会議	10月19日 ～ 10月21日	3日	韓国(ソウル)	北島 薫 第二部会員 (京都大学農学研究科教授)	第1区分
2					澁澤 栄 連携会員 (東京農工大学卓越リーダー養成機構特任教授)	
3					原 良憲 連携会員 (京都大学経営管理大学院・教授)	
4					岩崎 涉 連携会員 (東京大学大学院新領域創成科学研究科先端生命科学専攻教授)	
5					高橋 潔 (※3) — (国立環境研究所社会システム領域副領域長)	
6					吉村 忍 第三部会員 (東京大学副学長、大学院工学系研究科教授)	

(注)

(※1) 現在アジア学術会議には、バングラデシュ、カンボジア、中国、台湾、インド、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、ベトナムの18カ国・地域の31機関が加盟しており、一年毎に各国・地域が持ち回りで会議を開催。

(※2) 派遣候補者の会員・連携会員の種別については、第25期現在のもの。

(※3) 当該派遣候補者は、連携会員(特任)に承認されることを条件とする(ただし、第26期において会員又は連携会員に任命された場合を除く。)

(※4) 令和5年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針(令和5年2月22日日本学術会議第339回幹事会決定)に基づく区分。

●令和5年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針

〔令和5年2月22日
日本学術会議第339回幹事会決定〕

アジア学術会議は、アジア域内での学術交流と協力を促進する基盤を提供し、全体論的な展望と構想を作り、その実現を諮ることを目的としており、その目的の達成は、アジア域内の各国において参加国間の連絡調整を行い、学術に関する研究発表及び討論等を行う会議を開催することにより行うこととなっている。

アジア学術会議においては、日本学術会議が事務局を担っていること、また、日本学術会議会員等が事務局長を務めていることから、令和5年度の国際会議等への代表者の派遣は下記の方針に基づいて行う。

(1) 第1区分

- ・アジア学術会議大会（国際シンポジウム、理事会、国際共同プロジェクト・ワークショップ等で構成）に、アジア学術会議事務局長を含む会員等を派遣する。

(2) 第2区分

- ・アジア学術会議の開催・運営に関する会議である、アジア学術会議役員会議等に、アジア学術会議事務局長を含む会員等を派遣する。
- ・次年度以降の開催準備に係る調整及び事前調査等に、アジア学術会議事務局長を含む会員等を派遣する。

(3) 第3区分

- ・アジア学術会議の加盟機関拡大のため、アジア学術会議事務局長を含む会員等を非加盟機関本部等に派遣する。

本基本方針に基づいて国際会議等への代表者の派遣を行う場合は、別添の様式にて事前に幹事会の議決に付すものとする。

令和5年度アジア学術会議外国人の招へい者

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備 考
			計			
1	第22回アジア学術会議	10月19日～ 10月21日	3日	韓国（ソウル）	Lourdes J. Cruz (Future Earth Philippines プロジェクトリ ーダー)	第1区分

公開シンポジウム
「ようこそ社会水文学へ～水と社会の相互作用を考える～」
の開催について

1. 主催：日本学術会議地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会、地球惑星科学委員会 IUGG 分科会
2. 共催：一般社団法人水文・水資源学会、日本水文科学会
3. 後援：公益社団法人日本地下水学会、公益社団法人日本地球惑星科学連合大気水圏科学セクション、国際水文地質学会、地理学連携機構
4. 日時：令和5年（2023年）9月3日（日）11：40～13：10
5. 場所：出島メッセ長崎（長崎県長崎市尾上町4-1）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

不確実性が増す社会において、水と社会の新たな関係性を模索する必要がある。その関係性を解明する新たな科学として誕生したのが「社会水文学」である。過去約10年にわたり、世界中で社会水文学に関する研究が進み、水と社会の関係性に関する様々な事象が明らかになりつつある。日本学術会議では、2022年度に地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会のもとに社会水文学小委員会を設置した。この小委員会は、水に関する様々な研究者からなる日本で初めての社会水文学に関する小委員会であり、約1年半にわたって日本における社会水文学や水に関する学際研究のあり方について議論を行ってきた。

本シンポジウムでは、社会水文学の世界的な動向と本小委員会でのこれまでの活動を踏まえ、日本での水に関する学際研究の推進や実課題解決に向けた展望について議論する。

9. 次第：

第一部

（総合司会） 小森 大輔（日本学術会議連携会員、東北大学グリーン未来創造機構・特任教授）

11:40 開催挨拶・趣旨説明

沖 大幹（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

11:45 第一部 社会水文学の進展と日本での可能性

- 中村 晋一郎（名古屋大学大学院工学研究科土木工学専攻准教授）
- 12:05 第二部 パネルディスカッション「日本における社会水文学の可能性と課題」
（司会） 檜山 哲哉（名古屋大学宇宙地球環境研究所教授）
飯泉 佳子（日本大学文理学部地球科学科准教授）
坂本 麻衣子（東京大学大学院新領域創生科学研究科准教授）
高橋 そよ（琉球大学人文社会学部琉球アジア文化学科准教授）
千葉 知世（大阪公立大学現代システム科学研究科准教授）
- 13:05 閉会挨拶
春山 成子（日本学術会議第三部会員、三重大学名誉教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「環境に関する政策統合の課題」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議環境学委員会環境政策・環境計画分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5（2023年）年9月3日（日）13：30～17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：未定

8. 開催趣旨：

今後の環境政策のあるべき姿をテーマとして、政策・計画の統合に焦点を当てつつ、各環境政策について取り上げる。「第6次環境基本計画」は副題として考慮の対象とする。

9. 次 第：

- | | |
|-------|--|
| 13：30 | 挨拶、「問題提起－環境に関する政策統合の課題」
<u>高村 ゆかり（日本学術会議第一部会員、東京大学未来ビジョン研究センター教授）</u> |
| 13：50 | 「問題提起－自治体の環境計画、地域循環共生圏」
<u>村上 暁信（日本学術会議連携会員、筑波大学システム情報系教授）</u> |
| 14：10 | 「汚染、環境政策・環境計画における参加」
<u>大久保 規子（日本学術会議第一部会員、大阪大学大学院法学研究科教授）</u> |
| 14：30 | 「気候変動」
<u>馬奈木 俊介（日本学術会議第一部会員、九州大学大学院工学研究院都市システム工学講座教授）</u> |
| 14：50 | 「生物多様性」
<u>栗山 浩一（日本学術会議連携会員、京都大学大学院農学研究科教授）</u> |

- 15 : 10 「循環、政策統合の進むべき道」
大塚 直（日本学術会議第一部会員、早稲田大学法学部教授）
- 15 : 30 休憩
- 15 : 40 パネルディスカッション
渡辺 浩平（日本学術会議連携会員、帝京大学文学部准教授）
桑野 園子（日本学術会議連携会員、大阪大学名誉教授）
大沼 あゆみ（日本学術会議連携会員、慶応義塾大学経済学部教授）
浅見 真理（日本学術会議第三部会員、国立保健医療科学院生活環境研究部
上席主任研究官）
+上記報告者6名
- 17 : 00 閉会挨拶
大塚 直（日本学術会議第一部会員、早稲田大学法学部教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム

「[プラネタリーヘルス研究 市民公開シンポジウム]

気候変動・生物多様性損失と人間の健康・社会：学際研究から市民協働実践活動の展開」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議環境学委員会・健康・生活科学委員会合同環境リスク分科会
2. 共 催：公益社団法人環境科学会、プラネタリーヘルスアライアンス日本ハブ、神戸大学大学院人間発達環境学研究科
3. 後 援：公益社団法人日本 WHO 協会、日本生命科学アカデミー、特定非営利活動法人日本医療政策機構
4. 日 時：令和5年（2023年）9月7日（木）9：30～12：00
5. 場 所：神戸大学鶴甲第2キャンパス（兵庫県神戸市灘区鶴甲3丁目11）
（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

人類の人為的な活動が関連する地球温暖化や生物多様性の損失、その他の環境変化は、人を含む生態系や社会に様々なリスクをもたらしている。気候変動や生物多様性損失のリスクの評価では、個別の事象の影響の評価だけでなく、社会的条件、地域的条件などを考慮した評価も求められる。生物多様性の損失と気候変動の加速により、地球の生態系の動態が大きく変化し、災害抑止力の低下、食糧生産への影響、パンデミックなど感染症リスクの増大、人間の健康への影響がもたらされている。急速に高まる差し迫ったリスクに対処するには、あらゆる場所でカーボンニュートラルを含む多様な手法により直ちに取り組みながら、最善の対処方法を見出していく必要がある。

人間の健康と地球上のすべての生命を含む地球の生態系に対して人間社会の人為的活動がもたらしてきた影響を分析するとともに、課題を解決する社会実践の展開を重視する超学際的な取組は「プラネタリーヘルス」と呼ばれ、世界各地で多様なステークホルダーが参加している。地球規模の課題であるが、具体的な実践活動の多くは地域単位での展開が不可欠となっており、実践例が蓄積されつつある。

本シンポジウムでは、まず、気候変動と生物多様性損失に関わる学際的研究の進捗を知り、プラネタリーヘルスにおける環境学を含む分野横断研究の今後の展開について議論を行う。さらに、地球規模の取組と地域社会の実践例に学び、今後のプラネタリーヘルスを推進する展開手法について議論し、持続可能な開発目標の達成に向けた行動目標を立てる。

9. 次 第:

座長

渡辺 知保 (日本学術会議連携会員、長崎大学プラネタリー・ヘルス学環長、大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授、前環境科学会会長)

中村 桂子 (日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学大学院国際保健医療事業開発学教授)

9:30~9:35

開会の挨拶

那須 民江 (日本学術会議連携会員、中部大学生命健康科学研究所客員教授、名古屋大学名誉教授)

9:35~9:45

趣旨説明

渡辺 知保 (日本学術会議連携会員、長崎大学プラネタリー・ヘルス学環長、大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授、前環境科学会会長)

講演

9:45~10:00

1. 気候変動の健康影響評価とサステナビリティ (仮題)

橋爪 真弘 (東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学教授)

10:00~10:15

2. 越境大気汚染の健康影響評価とサステナビリティ (仮題)

上田 佳代 (日本学術会議連携会員、北海道大学大学院医学研究院衛生学教室教授)

10:15~10:30

3. 地域スケールの水環境における気候変動適応 (仮題)

小熊 久美子 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科准教授)

10:30~10:45

4. サステナビリティにかかわる地域連携の取り組み (仮題)

竹内 彩乃 (東邦大学理学部生命圏環境科学科准教授)

10:45~11:00

5. 気候変動ロス&ダメージ、各国における対策

松田 英美子 (環境省地球環境局総務課気候変動適応室室長補佐)

11:00~11:15

6. プラネタリーヘルスにおける日本の役割 (仮題)

亀山 康子（日本学術会議連携会員、東京大学大学院新領域創成科学研究科附属サステイナブル社会デザインセンターセンター長／教授）

11:15～11:55

総合討論

司会：渡辺 知保（日本学術会議連携会員、長崎大学プラネタリー・ヘルス学環長、大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授、前環境科学会会長）

中村 桂子（日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学大学院国際保健医療事業開発学教授）

パネリスト：橋爪 真弘（東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学教授）

上田 佳代（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院医学研究院衛生学教室教授）

小熊 久美子（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科准教授）

竹内 彩乃（東邦大学理学部生命圏環境科学科准教授）

松田 英美子（環境省地球環境局総務課気候変動適応室室長補佐）

亀山 康子（日本学術会議連携会員、東京大学大学院新領域創成科学研究科附属サステイナブル社会デザインセンターセンター長／教授）

原 圭史郎（大阪大学大学院工学研究科教授）

11:55～12:00

閉会の挨拶

秋葉 澄伯（日本学術会議連携会員、弘前大学特任教授、鹿児島大学名誉教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議、パンデミックと社会に関する連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「フューチャー・デザイン 2023」
の開催について

1. 主催：日本学術会議経済学委員会・環境学委員会合同フューチャー・デザイン分科会、キャノングローバル戦略研究所
2. 共催：大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所
3. 後援：なし
4. 日時：令和5年（2023年）9月9日（土）9：00～18：25
9月10日（日）10：00～17：25
5. 場所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：未定

8. 開催趣旨：

現在、新型コロナウイルスの感染症については、ようやく終息しつつある状況にあると言えるものの、世界に目を向ければ、ウクライナとロシアを巡る問題が発生している中で国際社会の安定をどのように実現させてゆくべきか等、コロナ前から議論されている温暖化などの環境問題に加え課題が山積しています。現世代の私たちがこれらの課題にどういった答えを出すにせよ、それは長期的な影響を及ぼすことは間違いありません。

こうした状況に鑑み、数世代先の未来の立場に立って、その視点から現代をふり返って現世代が将来可能性を最も発揮できるような社会の仕組みをデザインする『フューチャー・デザイン』という手法を使う有益性を人類全体が感じる時代が到来するものと考えています。

そのため、今回開催する「フューチャー・デザイン 2023」は、これからの世界をどのようにデザインすれば良いのかについて、政治や行政機関、経済や企業、学術研究などの専門家の智恵を集め、皆様で考えるためのシンポジウムとして位置付けています。

9. 次 第:

9月9日(土)

司会: 西條 辰義 (日本学術会議連携会員、京都技術先端科学大学特任教授、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所客員教授)

9:00~9:15

開会のあいさつ

小林 慶一郎 (キヤノングローバル戦略研究所研究主幹、慶應義塾大学経済学部教授)

9:15~9:30

「市民会議とフューチャー・デザイン」

西條 辰義 (日本学術会議連携会員、京都技術先端科学大学特任教授、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所客員教授)

※with simultaneous interpretation

Chair: Toshiaki Hiromitsu, Policy Research Institute Ministry of Finance

9:30~10:45

Keynote speech

“TBD “

Hélène Landemore, Professor, Yale University

※同時通訳あり

司会: 中川 善典 (日本学術会議連携会員、上智大学地球環境学研究科地球環境学専攻教授、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授)

10:45~12:30

ポストウクライナのフューチャーデザインパネル討論

小林 慶一郎 (キヤノングローバル戦略研究所研究主幹、慶應義塾大学経済学部教授)

山下 一仁 (キヤノングローバル戦略研究所研究主幹)

神保 謙 (キヤノングローバル戦略研究所主任研究員、慶應義塾大学総合政策学部教授)

吉岡 明子 (キヤノングローバル戦略研究所研究員)

園部 哲史 (アジア開発銀行研究所所長)

今井 絵里奈 (Future Generations Global Ambassador, Future Generations Commissioner for Wales)

・10:50~10:55 企画説明

西條 辰義 (日本学術会議連携会員、京都技術先端科学大学特任教授、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所客員教授)

・10:55~11:10 事前セッションの概要

中川 善典（日本学術会議連携会員、上智大学地球環境学研究科地球環境学専攻教授、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授）

- ・ 11：10～11：40 事前セッション参加者（小林氏、山下氏、神保氏、吉岡氏）と中川との対談形式で、事前セッションの結論を紹介
- ・ 11：40～12：10 園部氏、今井氏も加わって総合討論
- ・ 12：10～12：30 フロアからの質問（事前セッション参加者＋園部氏＋今井氏）

12：30～13：30 休憩

座長：中川 善典（日本学術会議連携会員、上智大学地球環境学研究科地球環境学専攻教授、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授）

13：30～14：00 「「道総研まちづくり塾」を通じた市町村職員向けフューチャーデザインの実践」

牛島 健, 石井 旭, 佐々木 優二（地方独立行政法人北海道立総合研究機構研究建築本部 北方建築総合研究所）

14：00～14：30 「気候変動問題における倫理的ジレンマ」

松島 斉（東京大学大学院経済学研究科教授）

14：30～15：00 「専門知を対等に伝え合う場としてのフューチャー・デザイン：気候変動下における農業の実現可能な将来展望に向けて」

一原 雅子（日本学術振興会特別研究員、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所京都気候変動適応センター外来研究員）

15：00～15：30 「フューチャーデザイン及びドラマセラピー手法を活用した地域での環境教育プログラム開発・実践の可能性について」

松本 明（高知大学地域協働学部准教授）

15：30～15：40 休憩

座長：西村 直子（日本学術会議連携会員、立命館大学食マネジメント学部教授、大阪大学社会経済研究所特任教授）

15：40～16：10 “CEO Age and Company’s Green Initiatives” ※同時通訳あり
Nick Barter and Akihiro Omura, Griffith University

16：10～16：40 “Future Generations Design: cocreating a sustainable and thriving tomorrow, Today” or “Nextgenda: cocreating a sustainable and thriving tomorrow, today” ※同時通訳あり
Maurice van Rooijen, Young Minds Amsterdam

- 16 : 40～17 : 10 “Collective Projection into the Future, are France and Germany’ s Futurability diverging?” ※同時通訳あり
Sébastien Grappe, ENS Lyon and Stéphane Grumbach, INRIA
- 17 : 10～17 : 20 休憩
- 17 : 20～17 : 50 “Giving voice to the future in decision-making: a reflection on the value of future design councils”
※同時通訳あり
Koen Olivier de Vette
- 17 : 50～18 : 20 “Can we Create Empathy for Future Generations?”
※同時通訳あり
Keith Hyams, University of Warwick, UK
- 18 : 20～18 : 25 閉会のあいさつ
西條 辰義（日本学術会議連携会員、京都技術先端科学大学特任教授、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所客員教授）

9月10日（日）

- 司会：小林 慶一郎（キヤノングローバル戦略研究所研究主幹、慶應義塾大学経済学部教授）
- 10 : 00～10 : 05 二日目開会の辞、伊原木知事のご紹介
- 10 : 05～11 : 00 基調講演
「（仮）将来世代のための行政の取り組み」
伊原木 隆太（岡山県知事）
- 座長：西村 直子（日本学術会議連携会員、立命館大学食マネジメント学部教授、大阪大学社会経済研究所特任教授）
- 11 : 10～11 : 40 「世代間の利害対立の解決におけるナラティブの役割」
廣光 俊昭（財務総合政策研究所客員教員）
- 11 : 40～12 : 10 「財務省におけるフューチャーデザインの取り組みについて」
岡本 めぐみ（財務省主計局調査課課長補佐）
永野 あきほ（環境省大臣官房環境経済課課長補佐）
- 12 : 10～13 : 00 休憩
- 座長：山口 正裕（松本市環境エネルギー部環境・地域エネルギー課主査）
- 13 : 00～13 : 30 「ソーシャルワークとフューチャー・デザインの結合に向けた試行について」
中島 将（社会福祉法人長野県社会福祉協議会）
- 13 : 30～14 : 00 「福祉領域が抱える生活支援（ソーシャルワーク）の課題とフューチャー・デザイン」
井上 信宏（信州大学学術研究院（社会科学系）教授）

- 14：00～14：10 休憩
座長：高橋 雅明（岩手県矢巾町企画財政課課長補佐）
- 14：10～14：40 「フューチャー・デザインの亜種 ～手前みそな実践フローのご紹介～」
文田 恵子（宮崎県木城町まちづくり推進課電算係主査）
- 14：40～15：10 「高知県梶原町における草の根的フューチャー・デザインの展開」
舟越 康浩（一般社団法人しあわせ推進会議事務局）
- 15：10～15：40 仮）「矢巾町におけるフューチャー・デザインの取り組みについて」
高橋 雅明（岩手県矢巾町企画財政課課長補佐）
- 15：40～15：50 休憩
座長：中川 善典（日本学術会議連携会員、上智大学地球環境学研究科地球環境学専攻 教授、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授）
- 15：50～16：20 「未来カルテを用いた未来ワークショップの展開と成果」
倉阪 秀史（千葉大学法政経学部教授）
- 16：20～16：50 仮）市民会議の話
三上 直之（北海道大学高等教育推進機構准教授）
- 16：50～17：20 「世代を超えた協力を作るには一後続世代の存続に着目して一」
高橋 茉優（東京大学大学院人文社会系研究科博士課程）
- 17：20～17：25 閉会のあいさつ
西條 辰義（日本学術会議連携会員、京都技術先端科学大学特任教授、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所客員教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「我が国の衛星地球観測に関する統合的戦略立案」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議地球惑星科学委員会地球・惑星圏分科会
2. 共 催：今後の宇宙開発体制のあり方に関するタスクフォース会合リモートセンシング分科会、衛星地球観測
コンソーシアム (CONSEO)
3. 後 援：(以下、後援依頼中) 内閣府宇宙開発戦略推進事務局、経済産業省、文部科学省、環境省、総務省、気象庁、日本海洋学会、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、一般財団法人リモート・センシング技術センター、一般社団法人日本リモートセンシング学会、公益社団法人日本地球惑星科学連合、公益社団法人日本気象学会、一般社団法人日本写真測量学会、日本測地学会、一般社団法人水文・水資源学会、Future Earth 国際事務局日本ハブ、日本大気化学会、一般社団法人水産海洋学会
4. 日 時：令和 5 年 (2023 年) 9 月 12 日 (火) 13:00 ~ 18:00
5. 場 所：日本学術会議講堂 (東京都港区六本木 7-22-34)
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

地球温暖化に伴う気候危機の顕在化のみならず、新型感染症の拡大や国際紛争の長期化に伴い、非常に複雑化した地球環境問題に立ち向かうため、人類は科学的エビデンスに基づく対応策をとる必要がある。今日、気候システムの理解とモニタリングの基礎となる 55 の必須気候変数の 80% について、地球観測衛星による観測が実証されている。地球観測衛星は気候変動対策にとって、また同時に道路などの社会インフラの老朽化対策等のためのモニタリングにとっても、現代社会にとって必須のインフラとなっている。

一方、地球衛星観測によって収集される大量データは、現代デジタル社会においては、科学的価値に加え経済的にも価値の高い資産である。複雑化した地球環境問題に対する国際協力に我が国も貢献すると同時に、急速に進展するデジタルトランスフォーメーション (DX)、グリーントランスフォーメーション (GX) のニーズを背景に、大量の観測情報を提供する地球衛星観測の多角的活用を推進することも重要な局面を迎えている。

現在の日本の地球観測政策において、学術的にも社会インフラとしても地球衛星観測の重要性は認識されているが、長期的展望に基づき、複雑化した地球環境問題に立ち向かう国の戦略に衛星観測を位置づける「衛星観測のプログラム化」と人材育成の実施は不十分

である。国際貢献、学問の進展、社会活用、産業活用の様々な視点から、オープンサイエンス推進、アーカイブ・利活用システム構築、人材育成を含む統合的戦略が必要である。

そこで、第25期地球惑星科学委員会地球・惑星圏分科会では「地球観測衛星将来構想小委員会」を設置し、産学官が連携した地球衛星観測の統合的戦略立案と人材育成の必要性について議論し、見解（案）「我が国の地球衛星観測に関する統合的戦略立案について」をとりまとめた。本シンポジウムにおいては、小委員会による見解（案）とりまとめの議論を紹介するとともに、内閣府宇宙政策委員会による将来展望、関係省庁、産業界や学協会などからの意見とニーズを確認し、我が国の衛星地球観測の統合的戦略立案をいかにして実現していくかについて多角的に議論することを目的とする。

9. 次 第：

第一部

司会 佐藤 薫（日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科教授）

13:00 開催挨拶

中村 卓司（日本学術会議第三部会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所所長）

13:05 趣旨説明

高薮 縁（日本学術会議連携会員、東京大学大気海洋研究所教授）

13:10 宇宙基本計画・工程表について

内閣府宇宙開発戦略推進事務局より登壇者調整中

13:25 衛星地球観測コンソーシアム（CONSEO）の活動（仮）

角南 篤（政策研究大学院大学学長特別補佐・客員教授、公益財団法人笹川平和財団理事長）

13:40 地球観測の将来展望（仮）

平林 毅（国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構第一宇宙技術部門地球観測統括）

13:55 我が国の地球観測の将来計画に関する提言

六川 修一（東京大学名誉教授、国立研究開発法人防災科学技術研究所防災情報研究部門調査役）

14:10 Tellus

山崎 秀人（さくらインターネット株式会社 執行役員）

14:25 休憩

第二部

司会 佐藤 薫（日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科教授）

14:40 気候変動と地球衛星観測

早坂 忠裕（東北大学大学院理学研究科教授）

15:00 人材育成（地学・地理の初等中等教育における地球衛星観測（仮））
阿部 なつ江（日本学術会議連携会員（特任）、国立研究開発法人海洋研究開発機構主任研究員）

15:20 我が国の地球衛星観測に関する統合的戦略立案についての見解
高藪 縁（日本学術会議連携会員、東京大学大気海洋研究所教授）

15:50 休憩

第三部

16:10 パネル討論

モデレータ 沖 大幹（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

パネリスト

・省庁パネリスト

（環境省）岡野 祥平（環境省地球環境局総務課気候変動観測研究戦略室室長）

（気象庁）濱田 修（気象庁情報基盤部気象衛星課課長）

（総務省）扇 慎太郎（総務省国際戦略局宇宙通信政策課課長）

（内閣府）滝澤 豪（内閣府宇宙開発戦略推進事務局参事官）

（経済産業省）伊奈 康二（経済産業省製造産業局航空機武器宇宙産業課宇宙産業室室長）

（文部科学省）竹上 直也（文部科学省研究開発局宇宙開発利用課企画官）

・産業界パネリスト

新井 邦彦（地球観測データ利用ビジネスコミュニティ（BizEarth）幹事）

・学術界パネリスト

白坂 成功（内閣府宇宙政策委員会委員、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授）

沖 理子（国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構地球観測研究センターセンター長）

金谷 有剛（国立研究開発法人海洋研究開発機構地球環境部門地球表層システム研究センター長）

安中 さやか（東北大学大学院理学研究科教授）

江口 菜穂（九州大学応用力学研究所准教授）

17:40 おわりに

田近 英一（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理学系研究科教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「生成 AI の課題と今後」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議情報学委員会 IT の生む諸課題検討分科会
2. 共 催：一般社団法人情報処理学会、一般社団法人電子情報通信学会（以上、全て予定）
3. 後 援：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所、国立研究開発法人情報通信研究機構（以上、全て予定）
4. 日 時：令和 5 年 9 月 14 日（木）13：00 ～ 17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無： 無
7. 分科会の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

IT の進展は我々の社会に多くの利益をもたらすと共に、新たな課題も生み出しています。Chat GPT に代表される生成 AI はその一つであり、さまざまな分野で注目を集めています。今回は、生成 AI に関連するいくつかの重要なテーマに焦点を当てます。まず、言語系生成 AI の現状について俯瞰し、活用事例を紹介します。また、生成 AI の原理的な弱点、倫理的側面、著作権の観点などにおいて直面する適応限界や課題、大規模言語モデル (Large Language Models, LLM) の最新状況と課題についても取り上げます。本シンポジウムでは、生成 AI 技術の様々な分野でのよりよい活用と潜在的な課題や解決策について、活発な議論の場にしたいと考えています。奮ってご参加ください。

9. 次 第：

司会：大場 みち子（日本学術会議第三部会員、京都橘大学工学部情報工学科教授）

13：00 開会挨拶

土井 美和子（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人情報通信研究機構監事、東北大学理事、奈良先端科学技術大学院大学理事）

- 13 : 05 言語生成系 AI
黒橋 禎夫 (日本学術会議連携会員、京都大学大学院情報学研究科教授)
- 13 : 20 日本の LLM の状況と今後
鳥澤 健太郎 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人情報通信研究機構
データ駆動知能システム研究センター長)
- 13 : 35 生成系 AI の活用事例
井尻 善久 (LINE 株式会社 Data Science センター AI Dev 室室長)
- 13 : 50 言語系生成 AI の弱点
湊 真一 (日本学術会議連携会員、京都大学大学院情報学研究科通信情報
システム専攻教授)
- 14 : 05 法的推論への適応限界
佐藤 健 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所情報学
プリンシプル研究系教授)
- 14 : 20 言語 LLM の法的課題
宍戸 常寿 (日本学術会議連携会員 (特任)、東京大学大学院法学政治学
研究科教授)
- 14 : 35 休憩
- 14 : 55 画像系 AI の利活用 (講演者検討中)
- 15 : 10 画像系生成 AI の著作権的課題
赤松 健 (参議院議員)
- 15 : 25 総合討論
(司会) 喜連川 優 (日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人情報・システム
研究機構長、東京大学特別教授)
- (パネリスト)
- ・ 黒橋 禎夫 (日本学術会議連携会員、京都大学大学院情報学研究科特定教授)
 - ・ 鳥澤 健太郎 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人情報通信研究機構データ
駆動知能システム研究センター長)
 - ・ 井尻 善久 (LINE 株式会社 Data Scienc センター AI Dev 室室長)
 - ・ 湊 真一 (日本学術会議連携会員、京都大学大学院情報学研究科通信情報システ
ム専攻教授)
 - ・ 佐藤 健 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所情報学
プリンシプル研究系教授)
 - ・ 相澤 清晴 (日本学術会議第三部会員、東京大学大学院情報理工学系研究科教授)
 - ・ 橋本 隆子 (日本学術会議連携会員、千葉商科大学副学長、商経学部教授)
- 16 : 40 閉会挨拶
東野 輝夫 (日本学術会議連携会員、京都橘大学副学長、工学部教授)

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「動き出すこどもまんなか安全社会」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議臨床医学委員会・心理学・教育学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：公益社団法人こども環境学会、公益社団法人日本小児科学会、公益社団法人日本小児保健協会、こども家庭庁、消費者庁、経済産業省、東京都
4. 日 時：令和5年（2023年）9月16日（土）13：00 ～ 16：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：
事故による子どもの傷害は多発しており、傷害データを活用し、子どもの傷害の数を減少させる仕組みの構築が急務となっている。第25期子どもの成育環境分科会では、見解（案）「こどもの傷害を減らすためのデータ収集および利活用の促進」を取りまとめた。本シンポジウムでは、見解で示した目指すべき社会像と、その社会像の実現に向けて動き出している新たな取組を紹介する。これにより、課題の指摘にとどまることなく、国や地域で始まっている新たな胎動を参加者と共有し、また、今後、社会実装を進める上での関係者間のネットワークづくりを促進することを本シンポジウムの狙いとする。
9. 次 第：

13:00	挨拶 山中 龍宏（日本学術会議連携会員、緑園こどもクリニック院長）
13:05	ビデオメッセージ 小池 百合子（東京都都知事、調整中）（女性）

第1セッション「こどもの傷害を減らすため仕組みづくり」

◇総合司会

西田 佳史（日本学術会議連携会員、国立大学法人東京工業大学教授）

- 13:10 『見解案：こどもの傷害を減らすため仕組みづくり』
山中 龍宏（日本学術会議連携会員、緑園こどもクリニック院長）
- 13:40 『こどもまんなか安全の国の取り組み』
鈴木 達也（こども家庭庁成育局安全対策課課長）
- 14:10 『多職種連携の原因究明の取り組み（チャイルドデスレビュー）』
沼口 敦（国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学医学部附属病
院・病院講師）
- 14:40 『人工知能を活用したエンパワーメントの取り組み』
大野 美喜子（国立研究開発法人産業技術総合研究所人工知能研究セ
ンター主任研究員）

休憩（10分）（15：10～15：20）

第2セッション「動き出すこどもまんなか地域安全の取り組み」

◇総合司会

山中 龍宏（日本学術会議連携会員、緑園こどもクリニック院長）

- 15:20 『東京都版安全知識循環：セーフティレビューの取り組み』
横森 幸子（東京都子供政策企画局子供政策連携室子供政策連携推進
部子供政策調整担当課長）
- 15:40 『成育こどもシンクタンク』の取り組み
国立成育医療研究センター（依頼・調整中）

総合討論

司会 太田 由紀枝（NPO 法人セーフキッズジャパンプロジェクトマネージャ）

10. 関係部の承認の有無： 第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「薬剤師に期待する地域医療への能動的関与」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議薬学委員会、薬学委員会地域共生社会における薬剤師職能分科会、公益社団法人日本薬学会、一般社団法人日本医療薬学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：日本生命科学アカデミー、公益社団法人日本薬剤師会、一般社団法人日本病院薬剤師会（以上、全て予定）
4. 日 時：令和5年（2023年）9月16日（土）13：00 ～ 16：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

超高齢社会を迎えた日本において、質の高い医療・介護を提供するため、地域包括ケアシステムの構築が進められている。薬剤師・薬局には、処方箋を持参した患者を対象とするだけでなく、地域住民の健康を支える役割を担うなど、多職種や他の医療機関と連携した活躍が期待されている。本シンポジウムでは、医師・看護師・薬剤師の先駆的な取組を共有し、近未来の地域医療への能動的関与や多職種連携のあり方について議論を深めたい。

9. 次 第：

前半司会：平井 みどり（日本学術会議連携会員、公益社団法人日本薬学会監事、神戸大学名誉教授、京都大学医学研究科特任教授）

13:00 開会挨拶

望月 眞弓（日本学術会議副会長、公益社団法人日本薬学会監事、慶應義塾大学名誉教授）

岩渕 好治（公益社団法人日本薬学会会頭、東北大学大学院薬学研究科教授）
（交渉中）

- 13:10 趣旨説明
入江 徹美（日本学術会議連携会員、熊本大学大学院生命科学研究部特任教授）
- 13:15 提言「持続可能な医療を担う薬剤師の職能と生涯研鑽」の発出とその後の対応
（仮）
安原 真人（日本学術会議連携会員、帝京大学薬学部特任教授）
- 13:35 地域医療における薬剤師・薬局への期待
佐々木 淳（医療法人社団悠翔会理事長・診療部長）
- 13:55 訪問看護師が期待する薬剤師の在宅医療における役割
藤田 愛（医療法人社団慈恵会北須磨訪問看護リハビリセンター 所長）
- 14:15 休憩
- 後半司会：奥田 真弘（日本学術会議第二部会員、一般社団法人日本医療薬学会監事、大阪大学医学部附属病院教授）
- 14:30 長崎の地域医療における一開局薬剤師としての活動
中村 美喜子（ペンギン薬局、長崎薬剤師在宅医療研究会事務局、一般社団法人長崎県薬剤師会副会長）
- 14:50 院外処方箋の検査値を活用した地域との連携とアウトカム
石井 伊都子（日本学術会議連携会員、公益社団法人日本薬学会副会頭、一般社団法人日本医療薬学会副会頭、千葉大学医学部附属病院教授）
- 15:10 総合討論
司会：安原 真人（日本学術会議連携会員、帝京大学薬学部 特任教授）
矢野 育子（日本学術会議連携会員、一般社団法人日本医療薬学会理事、神戸大学医学部附属病院教授）
シンポジストに加えて、公益社団法人日本薬剤師会及び一般社団法人日本病院薬剤師会からパネリストが参加予定
- 15:50 厚生労働省挨拶
小川 雄大（厚生労働省医薬・生活衛生局総務課課長補佐）

15:55 閉会挨拶

山本 康次郎（一般社団法人日本医療薬学会会頭、群馬大学大学院医学系研究
科教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：パンデミックと社会に関する連絡会議

（下線の講演者等は、主催委員会（分科会）委員）

女性の活躍推進のためのワークショップ

「多様な人材が活躍できる環境を皆で考えよう～ロールモデルとの対話から考える～」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：全国ダイバーシティネットワーク、一般社団法人男女共同参画学協会連絡会
(いずれも調整中)
4. 日 時：令和5年（2023年）9月16日（土）15：00～17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可（但し、先着順200名）
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

生命科学分野においては、女子学生の割合は比較的高いにも関わらず、大半の分野で女性教員の割合は低く、特に、上位職になるにつれて、女性割合は下がっていくパイプ漏れの現象が長年続いている。この要因としては、女性はリーダーシップがない等の無意識のバイアスが根強いことや、ロールモデルが少なく若手女性研究者が、自身のキャリアを描きづらいこと等が考えられる。生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会では、一昨年、連続公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ」の第1回において、「大学における女性リーダーから見た課題と展望」を開催し、多くの方の参加を得て好評であった。しかし、シンポジウムの形式では、講師が一方向的に話す形式であるため、参加者の抱えている悩みや疑問には答えることができない。そこで、少人数で、双方向の対話を行えるワークショップをオンラインで企画した。本ワークショップでは、最初に、メインルームで概要説明や講師が自己紹介を行った後、5つのグループに分かれ、ブレイクアウトルームにおいて、講師との対話を通じて、多様な人材が活躍できる環境を作るにはどうすれば良いか等について考え、最後に、メインルームに戻り、どのようなディスカッションを行ったかを紹介する予定である。各グループには、ファシリテーターを2名ずつ配置し、ディスカッションがスムーズに進行するように配慮する。本ワークショップを通じて、若手女性研究者がキャリア形成を考える機会を提供すると共に、各組織の上

位職である女性講師が、どのように組織を改革していけば、皆が働きやすい環境を整備できるか等についてのヒントを得る機会にもしたいと考えている。

9. 次 第：

15：00～15：30 メインルーム

開会の挨拶 望月 眞弓（日本学術会議副会長、慶應義塾大学名誉教授）

概要説明・講師自己紹介

15：30～16：30 ブレイクアウトルーム

グループA

倉島 菜つ美（日本 IBM 株式会社コンサルティング事業本部ビジネス・トランスフォーメーション・サービス最高技術責任者・IBM フェロー）

華房 実保（株式会社三菱ケミカルリサーチ代表取締役社長）

ファシリテーター：竹中 麻子（日本学術会議連携会員、明治大学農学部教授）

秦 洋二（月桂冠株式会社専務取締役製造本部長）

グループB

林 由起子（東京医科大学学長）

新福 洋子（日本学術会議連携会員、広島大学副学長）

ファシリテーター：高橋 素子（日本学術会議連携会員、札幌医科大学医学部教授）

杉山 久仁子（日本学術会議第二部会員、横浜国立大学教育学部教授）

グループC

寺崎 浩子（日本学術会議第二部会員、公益財団法人日本眼科学会前理事長）

林 美加子（大阪大学歯学部附属病院長、特定非営利活動法人日本歯科保存学会理事長）

ファシリテーター：市川 哲雄（日本学術会議第二部会員、徳島大学大学院医歯薬学
研究部教授）

名越 澄子（日本学術会議第二部会員、埼玉医科大学総合医療セン
ター消化器・肝臓内科教授）

グループD

山田 容子（京都大学化学研究所教授）

北島 薫（日本学術会議第二部会員、京都大学大学院農学研究科教授、一般社団法人
日本生態学会副会長）

ファシリテーター：吉永 直子（日本学術会議連携会員、京都大学大学院農学研究科助
教）

千葉 一裕（日本学術会議連携会員、東京農工大学学長）

グループE

北川 尚美（日本学術会議第三部幹事、東北大学大学院工学研究科教授）

小川 美香子（北海道大学総長補佐・大学院薬学研究院教授）

ファシリテーター：米澤 彰純（東北大学総長特別補佐・国際戦略室副室長・教授）
熊谷 日登美（日本学術会議第二部会員、日本大学生物資源科学部
教授）

16：30～17：00 メインルーム

各グループの報告

閉会の挨拶 小松 浩子（日本学術会議第二部会員、日本赤十字九州国際看護大学学長）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「「みち」の視点からとらえる人と自然のかかわり」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議環境学委員会・統合生物学委員会合同自然環境分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）9月18日（月・祝）14：00～17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

「みち」は、人をつなぎ、生き物をつなぐ。近くの間所がつながり、やがて遠くの間所までつながる。古いものと新しいものをつなぎ、さまざまな境界を越えていく。「みち」があることで、人と自然のかかわりは多様になり複雑になっている。そのような「みち」の役割や働きの理解について、さまざまな学術分野での新たな展開や最近の動向を概観する。

9. 次 第：

14：00～16：30

1部：「みち」の視点からとらえる人と自然のかかわり

国土・景観・土地をつなぐ「みち」、古いものと新しいものを結ぶ「みち」、境界をまたいでつなぐ「みち」などのテーマで、さまざまな専門分野の講演者からお話しいただく。

「砂漠化対処の現場から考える乾燥地の「みち」と人・動物の移動」

大黒 俊哉（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

「熱帯林地域の川と道路：カリマンタン開発の歴史より」

井上 真（日本学術会議連携会員、早稲田大学人間科学学術院教授、東京大学名誉教授）

「漁労景観や雪形とかかわる視覚的なみち、景観の問題など（仮）」
池邊 このみ（日本学術会議第二部会員、千葉大学グランドフェロー）

「街道でつながる京の中心と周縁」
恵谷 浩子（日本学術会議連携会員、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部主任研究員）

「都市と農村をつなぐみち：江戸・東京の発展と資源流通」
田島 夏与（日本学術会議連携会員、立教大学経済学部経済政策学科教授）

「みちがつくるまち・都市」
村上 暁信（日本学術会議連携会員、筑波大学システム情報系教授）

『「かわ」と「みち」の関係と将来展望』
風間 聡（東北大学大学院工学研究科教授）

16：30～17：00

2部：パネルディスカッション

「みち」とかかわるレジリエンス・持続可能性について、1部の講演をうけて議論する。
司会進行：吉田 丈人（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
パネリスト：上記講演者

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議、「持続可能な発展のための国際基礎科学年2022」（IYBSSD2022）連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「フィールド研究における総合知～知識から実践へ～」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議環境学委員会環境科学分科会、農学委員会土壌科学分科会、環境学委員会・統合生物学委員会合同自然環境分科会
2. 共 催：公益社団法人化学工学会（予定）
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）9月19日（火）13：30～16：45（予定）
5. 場 所：日本学術会議講堂、会議室6-A（1）（東京都港区六本木7-22-34）
（ハイブリッド開催）（環境学委員会環境科学分科会開催のため）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：

土地管理や生態系保全などの現場では、そこでどのような問題が起きており、その背景には何があるのか、問題を解決するため適用される技術にはどのようなものがあり、その効果はどれほどか、このような問いに答える上で学術が果たす役割には大きなものがある。

このような現場の問題に対処するフィールド研究では、専門知のみならず総合知が必要である。自然科学と人文・社会科学を結集した学問知に加え、対象とする地域についての深い理解、そして地元のコミュニティとの協働の基盤となる現場知が求められる。

本シンポジウムでは、土地や生態系の劣化といった問題を解決することを志向した国内及び海外での研究事例を紹介し、今後の環境学分野における学術のあり方を考える場としたい。
9. 次 第：

13：30～13：40 開会挨拶

高村 ゆかり（日本学術会議第一部会員、副会長、東京大学未来ビジョン研究センター教授）

北川 尚美（日本学術会議第三部会員、東北大学大学院工学研究科教授）

13：40～13：50 趣旨説明

恒川 篤史（日本学術会議連携会員、鳥取大学乾燥地研究センター教授）

13：50～14：20 講演1「水域生態系の保全と管理（仮）」

吉田 丈人（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

14：20～14：50 講演2「森林の利用と管理（仮）」

深町 加津枝（日本学術会議連携会員、京都大学大学院地球環境学堂准教授）

14：50～15：20 講演3「アフリカ／中央アジアにおける土壌劣化とその修復（仮）」

小崎 隆（日本学術会議連携会員、愛知大学国際コミュニケーション学部教授、京都大学名誉教授）

（15：20～15：35 休憩）

15：35～16：05 講演4「砂漠化・放牧地管理における在来知（仮）」

柿沼 薫（アブドラ王立科学技術大学生物環境科学・工学部門リサーチサイエンティスト）

16：05～16：35 総合討論

モデレーター：恒川 篤史（日本学術会議連携会員、鳥取大学乾燥地研究センター教授）

コメンテーター：

岩崎 英二（独立行政法人国際協力機構上級審議役）

北川 尚美（日本学術会議第三部会員、東北大学大学院工学研究科教授）

講演者

16：35～16：45 閉会挨拶

大政 謙次（日本学術会議連携会員、高崎健康福祉大学農学部長・教授、東京大学名誉教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部、第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「リスク社会における法の役割」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議法学委員会リスク社会と法分科会

2. 共 催：なし

3. 後 援：なし

4. 日 時：令和5年（2023年）9月19日（火）13：30～17：00

5. 場 所：オンライン開催

6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

7. 分科会等の開催：未定

8. 開催趣旨：

現代社会は様々なリスクに囲まれているが、法学はこれに対してどのような役割を果たすべきか。特に、金融、AI、プラットフォーム、自動運転、環境、原発など現在生起し又はしつつあるリスクに対し、法哲学、民事法等の分野を対象として、どのようにその抑止と受容がなされているか、また、なされるべきかを考察する。

9. 次 第：

- 13：30 挨拶、『問題の所在』
中山 竜一（日本学術会議連携会員、大阪大学法学部教授）
- 13：50 『アテンションエコノミー下のデジタル社会のリスク』
林 秀弥（日本学術会議連携会員、名古屋大学法学部教授）
- 14：10 『デジタル化による金融環境の変化に伴うリスク』
千葉 恵美子（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院招聘教授）
- 14：30 『自動運転のリスク』
窪田 充見（日本学術会議連携会員、神戸大学大学院法学研究科教授）
- 14：50 『原発のリスク』
大久保 規子（日本学術会議第一部会員、大阪大学法学部教授）
- 15：10 『リスク社会における法的対応—AI、環境・災害のリスクを中心として』

- 大塚 直（日本学術会議第一部会員、早稲田大学法学部教授）
- 15：30 休憩
- 15：40 パネルディスカッション
- 岸本 充生（大阪大学データビリティフロンティア機構教授）
- 神里 達博（日本学術会議連携会員、千葉大学大学院国際学術研究院教授） + 上記6名
- 17：00 閉会挨拶
- 大塚 直（日本学術会議第一部会員、早稲田大学法学部教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「若手研究者とリーダーシップ：研究チームから国際コミュニティまで」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議若手アカデミー
2. 共 催：広島大学 HIRAKU-Global（予定）
3. 後 援：国立研究開発法人科学技術振興機構（予定）
4. 日 時：令和5年9月22日（金）13：00～15：00（予定）
5. 場 所：広島大学霞キャンパス広仁会館（広島市南区霞1丁目2番3号）（ハイブリッド開催）
6. 分科会の開催：開催予定あり
7. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

8. 開催趣旨：

研究・知識生産活動の発展のため、若手研究者はリーダーシップや研究室運営、国際コミュニティとの関係構築などさまざまな能力を身につけていくことが求められる。研究者のキャリアは選択の連続であるが、分野や所属、ライフイベント、その時々への支援制度環境の影響を受けることから、キャリアプランさらにはライフプランの見通しが立ちづらく、若手研究者の不安要因となるだけでなく、若者が研究者を選択する阻害要因にもなっている。

本シンポジウムでは、日本学術会議若手アカデミーのメンバーで、人文・社会科学と自然科学にまたがる多様な分野の45歳未満の研究者が、自立した研究者になるまでの自らの経験について、研究室運営や学生のモチベーション向上の工夫、海外での研究活動の経験、ライフイベントとの両立などに焦点を当てながら、成功だけでなく失敗や後悔なども含めて話題提供を行う。

国際的な競争の激化、ポストや研究費をめぐる不安定さなど、若手研究者を取り巻く研究・知識生産の環境が大きく変化する中で、若手研究者（大学院生や専門職の方も含む）が自らの置かれている状況を客観的に捉え、将来の選択肢を見据えた上で自らのキャリア形成について考えるきっかけとなることを目指す。

9. 次 第：

司会 新福 洋子（日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、広島大学副学長・大学院医系科学研究科教授）

13:00 開会挨拶

相田 美砂子 (日本学術会議第三部会員、広島大学特命教授)

13:05 趣旨説明

岩崎 渉 (日本学術会議連携会員、若手アカデミー代表、東京大学大学院新領域創成科学研究科先端生命科学専攻教授)

13:10~14:55 講演「若手研究者とリーダーシップ：多様な研究者像から」(仮)

コーディネーター 岩崎 渉 (日本学術会議連携会員、若手アカデミー代表、東京大学大学院新領域創成科学研究科先端生命科学専攻教授)

岩崎 渉 <統合生物学、情報学> (日本学術会議連携会員、若手アカデミー代表、東京大学大学院新領域創成科学研究科先端生命科学専攻教授)

石川 麻乃 <統合生物学> (日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授)

江端 新吾 <教育学、地球惑星科学> (日本学術会議連携会員 (特任)、若手アカデミー会員、東京工業大学企画本部戦略的経営室教授)

小野 悠 <土木工学・建築学> (日本学術会議連携会員、若手アカデミー幹事、豊橋技術科学大学准教授)

笠井 久会 <食料科学> (日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、北海道大学大学院水産科学研究院准教授)

川口 慎介 <地球惑星科学、環境学> (日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、国立研究開発法人海洋研究開発機構地球環境部門主任研究員)

木村 草太 <法学> (日本学術会議連携会員 (特任)、若手アカデミー会員、東京都立大学法学部教授)

小森 大輔 <環境学、土木工学・建築学> (日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、東北大学グリーン未来創造機構特任教授)

近藤 康久 <社会学、環境学> (日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所准教授)

新宅 博文 <統合生物学> (日本学術会議連携会員 (特任)、若手アカデミー会員、京都大学医生物学研究所教授)

新福 洋子 <健康・生活科学> (日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、広島大学副学長・大学院医系科学研究科教授)

高瀬 堅吉 <心理学・教育学、基礎医学> (日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、

中央大学大学院文学研究科心理学専攻教授)

高田 知実 <経営学> (日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、神戸大学大学院経営学研究科教授)

田中 和哉 <総合工学、教育学> (日本学術会議連携会員(特任)、若手アカデミー会員、政策研究大学院大学政策研究院 リサーチ・フェロー)

前川 知樹 <歯学> (日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、新潟大学医歯学総合研究科高度口腔機能教育研究センター研究教授)

南澤 孝太 <総合工学、情報学> (日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授)

森 章 <統合生物学、農学> (日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、東京大学先端科学技術研究センター教授)

※1人5分程度話題提供し、最後に総括

14:55 閉会挨拶

新福 洋子 (日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、広島大学副学長・大学院医系科学研究科教授)

10. 関係部の承認の有無：無

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「総合知における人文・社会科学の役割と評価」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議第一部人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会、第一部人文・社会科学基礎データ分科会
2. 共 催：中部大学創造的リベラルアーツセンター（予定）
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）9月23日（土）13：00～16：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

2021年4月に施行された「科学技術・イノベーション基本法」において人文・社会科学が同法の対象とする科学技術の中に含まれることになった。そして同法とそれを受けて制定された「科学技術・イノベーション基本計画」では、人文・社会科学の「知」と自然科学の「知」の融合による「総合知」が注目されるようになった。このことを受けて日本学術会議でも人文・社会科学の振興と総合知における役割・評価について議論を重ねてきた。たとえば、日本学術会議総合工学委員会工学基盤における知の統合分科会の報告「『知の統合』の人材育成と推進」（2017年9月20日発出）、公開シンポジウム「総合知創出に向けた人文・社会科学のデジタル研究基盤構築の現在」（2022年1月22日）、日本学術会議近畿地区会議学術講演会「総合知をはぐくむ学び」（2022年9月19日）などが挙げられる。また、国立研究開発法人科学技術振興機構社会技術研究開発センター（JST-RISTEX）においても「社会のなかの科学・社会のための科学」という理念のもとに総合知に対して俯瞰的に検討している。これらの動向を踏まえて、第一部人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会及び第一部人文・社会科学基礎データ分科会が主催する本公開シンポジウムでは、総合知において人文・社会科学が果たしている、また果たすべき役割は何か、また、その役割遂行をどのように評価するのか、といった問題に対して多面的に議論をする。

9. 次 第：

挨拶

13:00 開会挨拶

佐藤 嘉倫（日本学術会議第一部会員、京都先端科学大学人文学部学部長）

講演

総合司会

佐藤 嘉倫（日本学術会議第一部会員、京都先端科学大学人文学部学部長）

13:10 「工学分野にいた者から見た人文・社会科学」

前田 正史（京都先端科学大学学長）

13:35 「文理融合分野から見た人文・社会科学と総合知」

西田 眞也（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院情報学研究科教授）

14:00 「海外における人文社会系基礎データの収集・公開状況」

藤原 聖子（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）

14:25 「東アジアにおける人文・社会科学軽視の言説—総合知と対話を阻む要因を考える」

隠岐 さや香（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授）

休憩（10分）（14:50～15:00）

15:00 「コメント1」

三成 美保（日本学術会議連携会員、追手門学院大学法学部教授、奈良女子大学
名誉教授）

15:10 「コメント2」

石井 洋二郎（中部大学創造的リベラルアーツセンター・センター長）

15:20 総合討論

挨拶

15:50 閉会挨拶

溝端 佐登史（日本学術会議第一部会員、京都大学名誉教授・経済研究所特任教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「文化施設としての自然史系博物館を考える」
の開催について

1. 主催：日本学術会議地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会、統合生物学委員会・基礎生物学委員会・地球惑星科学委員会合同自然史・古生物学分科会
2. 共催：なし
3. 後援：公益社団法人東京地学協会
4. 日時：令和5年（2023年）9月23日（土）13:00～18:00
5. 場所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

近年、博物館の施設老朽化、収蔵庫の拡充問題、博物館活動の維持費増大など、公的責任をとるのが困難な状況にある。人材育成ならびに採用条件である学芸員資格取得を大学に依存、必要な専門家の不在、大学・その他の研究機関と異なる科研費申請条件など、博物館のみでは解決できない問題も横たわっている。自然史研究の充実・普及が期待されているにも関わらず博物館では専門教育継続が困難であり、研究費保障が困難な中で本来業務である標本資料の収集・整理・保存・管理に取り組む時間が短縮化している。自然史系博物館では地域の標本資料の継続的収集と大学などの収蔵品移譲も加わり収蔵庫のスペースが限界にきている。新種といったタイプ標本類が研究上重要であっても一般にその意義が理解されていない。標本資料の収集蓄積の必要性を伝達し、標本資料が円滑に利活用される文化施設としての博物館が存続するための議論をしたい。

9. 次第：

第一部

司会 杉田 文（日本学術会議連携会員、千葉商科大学商経学部教授）

13:00 会長挨拶

梶田 隆章（日本学術会議会長、東京大学卓越教授、東京大学宇宙線研究所教授）

13:05 開会挨拶

鈴木 康弘（日本学術会議連携会員、名古屋大学減災連携研究センター教授）

- 13:10 趣旨説明
春山 成子 (日本学術会議第三部会員、三重大学名誉教授)
- 13:15 基調講演1「文化施設としての博物館」
青柳 正規 (多摩美術大学理事長、ICOM 日本委員会委員長)
- 13:45 基調講演2「大学博物館の現状と展望：自然史科学のハブとなりうるか？」
大路 樹生 (日本学術会議連携会員、名古屋大学名誉教授・特任教授)

14:15 休憩

第二部 現状把握と課題

- 14:20 講演「2023年、博物館のいま」
遠藤 秀紀 (東京大学総合研究博物館教授)
- 14:40 講演「博物館経営における標本資料の維持管理」
松岡 敬二 (豊橋市自然史博物館ミュージアムアドバイザー)
- 15:00 講演「地域の文化資源を担う機関としての自然史博物館 ―菌類資料を中心に―」
佐久間 大輔 (大阪市立自然史博物館学芸課長)
- 15:20 講演「フィールド研究と博物館」
伊澤 雅子 (北九州市立自然史・歴史博物館館長)

15:40 休憩

第三部 将来展望

- 司会 張 勁 (日本学術会議連携会員、富山大学学術研究部理学系教授)
- 15:45 講演「大学における学術標本の散逸・保管問題と将来への課題」
堀 利栄 (日本学術会議第三部会員、愛媛大学副学長・大学院理工学研究科・教授)
- 16:05 講演「国立沖縄自然史博物館設立準備―現在の動向―」
西田 治文 (日本学術会議連携会員、中央大学理工学部生命科学科教授)
- 16:25 講演「考古学からのコメント」
矢島 國雄 (明治大学名誉教授、明治大学黒耀石研究センターセンター員)
- 16:45 講演「博物館政策の展望」
栗原 祐司 (公益財団法人日本博物館協会理事、独立行政法人国立科学博物館理事(兼)副館長)

17:05 休憩

17:10 総合討論

- 司会 平田 大二 (神奈川県立生命の星・地球博物館前館長)

パネリスト：講演者全員

17:55 閉会挨拶

齋藤 靖二（公益社団法人東京地学協会会長）

18:00 閉会

10. 関係部の承認の有無：第二部、第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「自治体と総合性～分権国会決議 30 年～」 (仮題)
の開催について

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会行政学・地方自治分科会
2. 共 催：自治体学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 5 (2023 年) 年 9 月 23 日 (土) 14:00 ～ 17:00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

1993 年の国会両院による地方分権推進決議から 30 年が経過した。また、分権型社会を目指した 2000 年の第 1 次分権改革より、四半世紀が過ぎようとしている。機関委任事務制度が廃止され、法定受託事務・自治事務を問わず、自治体は広く「地域における事務」を、自主的かつ総合的に担うこととされ、地域住民の意思に沿って自治体の事務を総合的に行うことが期待された。

しかし、その後の自治体を取り巻く状況は大きく変化した。三位一体改革、平成の市町村合併、官邸主導、2 度の政権交代、東日本大震災・原発事故その他の災害、個人番号制度、超高齢社会、人口減少・消滅可能性自治体・地方創生、なり手不足・人手不足、脱炭素社会・GX、新型コロナウイルス感染症の蔓延、デジタル化・DX など様々な要素が、自治体を取り巻く環境を複雑に構成してきたのである。

今や地域における人々の生活や課題は、様々に絡まり合っており、「地域における事務」を総合的に対処する必要は、増えることはあっても減ることはない。しかし、それが可能になっているかどうかには、様々な議論があり得よう。

このような中で、自治体が直面する様々な課題から、自治体の活動の総合性とその限界及び、その謙抑 (制限) について、今一度議論を深めて、21 世紀第 2 四半期の自治体のあり方を模索していきたい。

9. 次 第：

司会 金井 利之（日本学術会議連携会員、自治体学会員、東京大学法学部教授）

14：00 挨拶

金井 利之（日本学術会議連携会員、自治体学会員、東京大学法学部教授）

14：05 報告①「人口減少時代の自治体における総合性と多様性」

入江 容子（自治体学会員、同志社大学政策学部教授）

14：35 報告②「都市計画における総合性」

内海 麻利（自治体学会員、駒澤大学法学部教授）

15：05 報告③「日本の政治発展の中での自治体の総合行政」

北山 俊哉（日本学術会議連携会員、関西学院大学法学部教授）

休憩（15分）（15：35～15：50）

15：50 討論者①

片山 健也（自治体学会員、ニセコ町長）

16：05 討論者②

阿部 昌樹（自治体学会員、大阪公立大学法学部教授）

16：20 報告者応答

16：40 参加者質問

16：55 総括

金井 利之（日本学術会議連携会員、自治体学会員、東京大学法学部教授）

17：00 閉会

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「サステナブル経営の実現をめざして」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議経営学委員会 SDGs と経営実践・経営学・経営学教育を検討する分科会
2. 共 催：経営関連学会協議会
3. 後 援：検討中
4. 日 時：令和5年（2023年）9月24日（日）13：30 ～ 16：30
5. 場 所：筑波大学東京キャンパス（東京都文京区大塚3-29-1）
（ハイブリッド開催を予定）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

2015年にSDGsが国連で採択されて以来、企業・組織ではSDGsを経営に取り込むことで企業価値の向上につなげていこうとする取組が急速に増えている。しかし多くの場合、SDGsで掲げられている個別の目標への表面的な対応、あるいは、株価等の経済的価値に置き換えられる課題への対応に留まっている。本分科会ではこのような問題意識の下、これまでトレードオフ関係として捉えがちであった社会性（社会的価値）と経済性（経済的価値）双方の、より高次元における止揚を希求する未来志向の企業経営（本分科会ではこれを「サステナブル経営」と呼ぶ。）について審議を重ねてきた。具体的には、企業の市場対応、企業価値の評価、人的資源管理および人材開発について、SDGsの理念に基づいたサステナブル経営を実行する上での問題点と必要な体制・対応策に焦点をあてて検討した。その内容をシンポジウムの形で広く公表すると共に、サステナブル経営の実務者やESG投資に関する有識者を迎えて、内容についての意見を得ると共に、推進にあたっての産学連携のあり方等について議論する。

9. 次 第:

挨拶

13:30 開会の挨拶

高村 ゆかり (日本学術会議副会長、東京大学未来ビジョン研究センター教授)

共催の挨拶

上林 憲雄 (日本学術会議連携会員、経営関連学会協議会理事長、神戸大学大学院経営学研究科教授)

セッション「サステナブル経営の現状と課題」

◇総合司会

西尾 チヅル (日本学術会議第一部会員、筑波大学副学長)

13:40 趣旨説明

西尾 チヅル (日本学術会議第一部会員、筑波大学副学長)

13:50 報告1「マーケティング・市場対応における経済性と社会性」

村松 潤一 (日本学術会議連携会員、岐阜聖徳学園大学経済情報学部教授、広島大学名誉教授)

14:05 報告2「サステナブル経営に向けた人的資源管理」

森田 雅也 (日本学術会議連携会員、関西大学社会学部教授)

14:20 報告3「会計・企業価値評価における経済性と社会性」

阪 智香 (日本学術会議連携会員、関西学院大学商学部教授)

14:35 まとめ

休憩 (10分) (14:40~14:50)

パネルディスカッション「サステナブル経営の実現に向けて」

◇ファシリテーター

上林 憲雄 (日本学術会議連携会員、経営関連学会協議会理事長、神戸大学大学院経営学研究科教授)

14:50 趣旨説明

14:55 サステナブル経営実務者からの話題提供およびコメント

・夫馬 賢治 (株式会社ニューラル CEO、信州大学グリーン社会協創機構特任教授)

・竹ヶ原 啓介 (株式会社日本政策投資銀行設備投資研究所長)

・長谷川 雅巳 (一般社団法人日本経済団体連合会 環境エネルギー本部長) (予定)

15:25 総合討論「サステナブル経営の実現に向けて」

【ファシリテーター】

上林 憲雄 (日本学術会議連携会員、経営関連学会協議会理事長、神戸大学大学院経営学研究科教授)

【パネリスト】

村松 潤一（日本学術会議連携会員、岐阜聖徳学園大学経済情報学部教授、広島大学名誉教授）

二神 枝保（日本学術会議連携会員、横浜国立大学大学院国際社会科学
研究院教授）

西谷 公孝（日本学術会議連携会員、神戸大学経済経営研究所教授）

夫馬 賢治（株式会社ニューラル CEO、信州大学グリーン社会協創機構
特任教授）

竹ヶ原 啓介（株式会社日本政策投資銀行設備投資研究所長）

長谷川 雅巳（一般社団法人日本経済団体連合会 環境エネルギー本部
長）（予定）

16:25 閉会の挨拶

奥林 康司（日本学術会議連携会員、神戸市外国語大学教育研究学外評
議員）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「子ども政策の総合化を考えるⅢ：保育・幼児教育の公共性」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議心理学・教育学委員会排除・包摂と教育分科会、心理学・教育学委員会乳幼児発達・保育分科会
2. 共 催：東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター、広島大学大学院人間社会科学研究科附属幼年教育研究施設、お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所、一般社団法人日本保育学会、一般社団法人日本教育学会、教育関連学会連絡協議会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）9月24日（日）16：00～19：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

「こどもまんなか」をスローガンとして子ども政策の総合化が打ち出され、2023年4月1日、こども基本法が施行されるとともに、こども家庭庁が発足した。心理学・教育学委員会の二分科会では、その動向に即して重要な課題を提示するために、「子ども政策の総合化を考える」とのテーマのもとで、合同で一連のシンポジウムを行ってきた。初回は主にケアの視点から「横の連携」の重要性を打ち出し、第二回は主に教育の観点から「探究」を軸に「縦の接続」を構築する必要性を示した。

第三回の今回は、「保育・幼児教育の公共性」をテーマとする。こども家庭庁において現在打ち出されている施策は、保育・幼児教育の施設や制度を充実させるよりも、個々の子どもや個々の家庭の子育てを支援する方向へと向かっている。ここで見過ごされがちなのは、保育・幼児教育施設が持つ公共的な性格である。このシンポジウムでは、個々の子どもの学びと育ちを支えるというだけでなく、文化と価値を継承・創造し、社会を変容させる駆動力となる保育・幼児教育の可能性を考える。

9. 次 第：

挨拶

16:00 開会挨拶

中坪 史典（日本学術会議連携会員、広島大学大学院人間社会科学研究科教授、広島大学大学院人間社会科学研究科附属幼年教育研究施設長）

16:05 趣旨説明

浅井 幸子（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター副センター長）

◇司会

野澤 祥子（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター准教授）

16:10 「保育無償化の意義と課題」

村上 祐介（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授）

16:40 「幼児教育と公共性ーレッジョエミリア市立幼児学校の思想と実践から」

小玉 亮子（日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学基幹研究院教授）

17:10 「気候変動の時代の幼児教育ーユネスコ報告書を受けて」

永田 佳之（聖心女子大学現代教養学部教授）

17:40 休憩

18:00 指定討論

秋田 喜代美（日本学術会議連携会員（特任）、学習院大学文学部教授）

（もう1名、登壇者調整中）

18:20 総合討論

18:50 総合コメント

勝野 正章（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院教育学研究科教授）

18:55 閉会挨拶

遠藤 利彦（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院教育学研究科教授、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センターセンター長）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「地球環境変化の人的側面研究からの SDGs への貢献の現状と展望」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人的側面（HD）分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：Future Earth 国際事務局日本ハブ、地理学連携機構、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所、一般社団法人日本環境教育学会（以上、全て予定）
4. 日 時：令和5年（2023年）9月27日（水）13：00～16：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：

当分科会は令和元年10月に公開シンポジウム「地球システムと私たちの生活―人新世時代の想像力（Ⅱ）」を、また令和3年3月に公開シンポジウム「コロナ禍が加速する持続可能な社会の実現に向けた地球環境変化の人的側面研究の推進」を開催するなど、我が国で遅れていた社会人的側面からの持続可能性向上研究を振興し、将来社会の在り方を追及してきた。今回の公開シンポジウムは、このような一連の活動の一環として実施するものであり、近年の激甚気象災害の急増や深刻な国際社会の混迷などの中で、我が国における諸々の学術研究領域において SDGs に関してこれまでどのような取組がなされ、どのような成果があり、将来に向けどのような課題と展望を有しているかなどを紹介し、領域間の相互理解の増進、学術と社会との対話、地球環境変化の人的側面研究の推進と社会貢献につなげたい。そのために、話題提供者とフロアとが一緒にディスカッションするための時間を確保する。
9. 次 第：

総合司会：竹中 千里（日本学術会議連携会員、名古屋大学名誉教授）

13:00～13:05 開会挨拶

氷見山 幸夫（日本学術会議連携会員、北海道教育大学名誉教授）

13:05～13:15 趣旨説明

氷見山 幸夫（日本学術会議連携会員、北海道教育大学名誉教授）

13:15～13:35 農業における資源利用の観点からのSDGs達成に向けて

荘林 幹太郎（大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授）

13:35～13:55 森林における物質循環の観点からのSDGs達成に向けて

竹中 千里（日本学術会議連携会員、名古屋大学名誉教授）

13:55～14:15 社会の目標とビジョン設定におけるヒューマニティーの視点

谷口 真人（大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所副所長・教授）

14:15～14:25 休憩

14:25～14:45 社会変革のための学習プロジェクトからのSDGsへの取組

阿部 健一（日本学術会議特任連携会員、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所研究教授）

14:45～15:05 地理情報科学からのSDGsへの取組

山下 潤（九州大学大学院比較社会文化研究院教授）

15:05～15:25 SDGsターゲット指標への関りから学んだこと

渡辺 浩平（日本学術会議連携会員、帝京大学文学部教授）

15:25～15:55 ディスカッション

司会：春山 成子（日本学術会議会員、三重大学名誉教授）

コメンテーター：秦 範子（都留文科大学教養学部地域社会学科非常勤講師）

15:55～16:00 閉会挨拶

春山 成子（日本学術会議連携会員、三重大学名誉教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「陸域システムの持続性研究における GLP とデジタル技術の役割」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：Global Land Programme (GLP) 日本拠点オフィス、地理学連携機構（予定）
4. 日 時：令和5年（2023年）9月28日（木）13：30 ～ 17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の最新報告書は、気候変動の影響を緩和し、持続可能な開発目標（SDGs）を達成する上でデジタル技術の活用が不可欠であることを強調している。デジタル技術の効果的な活用は、気候変動のみならず、生物多様性、食料・エネルギー安全保障等、多くの地球規模課題の解決の鍵を握るといえる。

FE・WCRP 合同分科会 GLP 小委員会では、Future Earth のコアプロジェクトの一つである GLP（Global Land Programme；全球陸域研究計画）に関わる研究の推進と人材育成に関わる活動を行っている。GLP が取り組む陸域システム科学においても、リモートセンシングをはじめとするデジタルデータの効果的な活用に関わる技術開発は、陸域で生じている複雑な環境問題を解決し、持続可能な社会を実現する上できわめて重要である。

本公開シンポジウムでは、陸域システム科学研究を牽引してきた GLP 日本拠点オフィスにおける研究の最新成果、及びデジタル技術を活用した最先端の陸域科学研究を紹介し、データサイエンス及び GLP 関連活動における研究アイデアや応用に関する最新情報を共有した上で、陸域システムの持続可能性向上に向けて、GLP と革新的デジタル技術がどのように貢献できるかについて議論を深めたい。

9. 次 第 :

挨拶

13:30 開会挨拶

春山 成子 (日本学術会議第三部会員、三重大学名誉教授)

13:35 趣旨説明

大黒 俊哉 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

第1部 GLP Nodal Office における研究活動の紹介

13:40 「インドにおける地理空間データを用いた土地劣化モニタリング」

Raveena Raj (北海道大学大学院地球環境科学研究院博士研究員)

13:55 「精密農業に向けた機械/深層学習技術と高精細データの活用」

Xiao Juan (北海道大学大学院地球環境科学研究院博士課程)

14:10 「ヒマラヤにおける土地利用土地被覆の変化を引き起こす人・就業機会・商品間の移動関係：サガルマータ国立公園の例」

Yujie Sun (北海道大学大学院地球環境科学研究院博士研究員)

第2部 デジタル技術を活用した最先端の陸域科学研究

14:25 「JAXA における土地利用・土地被覆研究」

奈佐原 顕郎 (筑波大学生命環境系准教授)

14:40 「モンゴルにおける土地利用変化が草原生態系に及ぼす影響評価」

王 勤学 (国立研究開発法人国立環境研究所地域環境研究センター主席研究員)

14:55 「ドローン空撮による植生・土地利用解析への応用」

重松 智穂美 (公益財団法人地球環境研究戦略機関 (IGES) 研究員)

15:10 「LiDAR 利用による森林資源・生物多様性保全への応用」

奥田 敏統 (広島大学大学院統合生命科学研究科特任教授)

15:40 「生物多様性と森林バイオマスのモニタリング観測におけるデジタル技術の活用と多様なステークホルダーとの協働」

石原 正恵 (京都大学フィールド科学教育研究センター准教授)

15:25 「土地利用管理に関連した JICA 研修の 10 年間の経験に基づく GIS、リモートセンシングの役」

吉村 暢彦 (酪農学園大学農食環境学群環境共生学類講師)

休憩 (15 分) (15 : 55 ~ 16 : 10)

総合討論

16:10 司会 Ram Avtar (北海道大学大学院地球環境科学研究院准教授)

渡辺 悳二 (北海道大学大学院地球環境科学研究院教授)

挨拶

16:55 閉会挨拶

氷見山 幸夫（日本学術会議連携会員、北海道教育大学名誉教授）

17:00 終了

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議、「持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022」（IYBSSD2022）連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「歴史教育シンポジウム（「歴史総合」をめぐって(7)－
「歴史総合」の授業と教員養成を検討する」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議史学委員会、史学委員会中高大歴史教育に関する分科会
2. 共 催：日本歴史学協会
3. 後 援：未定
4. 日 時：令和5年（2023年）10月28日（土）13：00～17：00
5. 場 所：一橋大学（東キャンパス）東2号館2201教室（東京都国立市中2－1）
（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会の開催：検討中
8. 開催趣旨：

このシンポジウムでは「歴史総合」についてすでに6回検討してきた。歴史総合は2022年4月から授業が始まり1年以上が経過した。授業構想ではなく実際に授業を実施して、歴史教育の新しい側面の発見や逆に授業の困難も幾つか報告されている。今回は歴史総合が必修科目である点に注目して企画した。歴史総合が学校教育で最後の歴史の授業になるかも知れない生徒に授業を行っている教員などに報告を依頼してみた。また、歴史総合や探求科目は、新しい試みであるために多くの現職教員は大学でその訓練を受けていない。これから教員になる大学生にどのような歴史教育を行っていくかを考えてみる必要があるだろう。3つの報告は、歴史教育の今後を考える貴重な素材を提供すると期待している。

9. 次 第：

司会 鈴木 茂（日本学術会議連携会員、名古屋外国語大学世界共生学部教授・学部長）
高澤 紀恵（日本学術会議連携会員、法政大学文学部教授）

13：00～13：10 開会挨拶 若尾 政希（日本学術会議第一部会員、一橋大学大学院社会学研究科教授、日本歴史学協会委員長）

13：10～13：20 趣旨説明 君島 和彦(日本学術会議連携会員、東京学芸大学名誉教授、
日本歴史学協会常任委員)

報 告

13：20～14：00

「必修科目としての歴史総合ー通信制、遠隔授業、そして普通科の高校で」
吉嶺 茂樹 (札幌日本大学高等学校教諭)

14：00～14：40

「地域教材を活用した歴史総合の実践 (仮)」
井本 幸輝 (山口県立宇部西高等学校教諭)

14：40～15：20

「「歴史総合・探究」の時代の歴史の教員養成のあり方をめぐって (仮)」
小嶋 茂稔 (日本学術会議連携会員、東京学芸大学副学長・教育学部
教授、日本歴史学協会常任委員)

15：20～15：35 休 憩

15：35～16：55 パネルディスカッション

コメント 松本 直子 (日本学術会議連携会員、岡山大学文明動態学研究所所長)

16：55～17：00 閉会挨拶：栗田 禎子 (日本学術会議第一部会員、千葉大学大学院人文
科学研究院教授、日本歴史学協会常任委員)

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催委員会 (分科会) 委員)

○国内会議の後援（2件）

以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 第64回大気環境学会年会

主催：公益社団法人大気環境学会

期間：令和5年9月13日（水）～15日（金）

場所：国立研究開発法人産業技術総合研究所つくばセンター共用講堂

参加予定者数：約800名

申請者：公益社団法人大気環境学会 会長 伊豆田 猛

審議付託先：第二部、第三部

審議付託結果：第二部、第三部承認

2. サイエンスアゴラ 2023（年次総会）

主催：国立研究開発法人科学技術振興機構

期間：オンライン開催：令和5年10月26日（木）～28日（土）

前夜祭（オンライン）：令和5年11月17日（金）

実施開催：令和5年11月18日（土）～19日（日）

場所：オンライン開催及び前夜祭：ウェブ会議、動画共有サービスを用いてオンライン配信及びアーカイブ配信

実施開催：テレコムセンタービル他（お台場 青海地区）

参加予定者数：約10,000名

申請者：国立研究開発法人科学技術振興機構 理事長 橋本 和仁

審議付託先：科学と社会委員会

審議付託結果：科学と社会委員会承認

○今後の予定

●幹事会

第349回幹事会	令和5年	8月10日(木)	14:30から
第350回幹事会	令和5年	8月29日(火)	13:30から
第351回幹事会	令和5年	9月15日(金)	13:30から
第352回幹事会	令和5年	9月25日(月)	13:30から

●総会

第189回総会	令和5年	10月2日(月)～4日(水)
---------	------	----------------